令和５年度　第５回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

1.　期日：令和５年１２月１２日（火）１５：００～１６：３０

2.　場所：有田工業高等学校　会議室（管理棟１階）

3.　参加者：校長を含む委員１０名（欠席３名）
　　事務局　８名（本校職員）
　　傍聴者　２名

4.　会次第及び議事録
(1) 開　会
(2) 学校長挨拶
(3) 教育振興課指導主事挨拶
(4) 議事
①　スクール・ミッション／スクール・ポリシーについて
〇全日制
・校訓である『勉脩』・「愛し」、「創り」、「光れ」に基づいて作った。
・校内で学校・生徒に必要な「キーワード」を考えてもらい、直接ではないがこのキーワードに沿った文言を考えた。
・平成 19 年の学校要覧から記載されていた校訓の後に続く文章（『勉脩』: 生涯学び続ける／「愛し」: 自分を大切にし、他人を思いやる／「創り」: 新しいことに積極的に挑戦していく／「光れ」: 一人ひとりが社会に貢献できる人間になる）も、校内の職員の評価が高かったために参考にした。

〇定時制
・基本的な考え方は全日制と同じだが、定時制の生徒の場合には入学当初からものづくりに興味関心が高いというより、とにかく高校に行きたいという思いで登校している生徒も在籍しているため、生徒の実態を見ながら全日制とは表現を若干変えた。
・初めの項目に関しては、学校に来て初めてものづくりに触れる生徒もいるために、ものづくりへの興味関心を持つように表現を変えた。
・２番目は全日制と同じ。
・３番目は自己肯定感をあまり持てない生徒もいる現状を考え、積極的に挑戦することを学校での学習を通じて身につけてほしいという考えで表現を変えた。
・４番目については、「働きながら学ぶ」ということが基本であり、現在アルバイト等で仕事をしながら通っている生徒が６割程度いる。学校の中でアルバイト等を通じて就業意欲を持たせて地域に貢献し、卒業後も続けていくように育てていきたいという考えで、文言を変えている。

● 意見：１番目の「ものづくりの精神」の『精神』という言葉が入っているが、他は割合具体的にあるべき姿が表されておりイメージしやすいが、『精神』の部分だけイメージしにくい印象を持った。『精神』を第三者に対して具体的にイメージしやす

いような説明ができるか。

回答：「ものづくりの精神」や「ものづくりの心」などいろいろと考えてこの文にしたところで、『精神』の方が基盤となる心持ちというイメージがあり、より高尚なイメージがあって言葉を選んだ。他に委員の皆様でよい言葉があればご提案いただけないだろうか。

● 意見：『精神』という言葉は何となくの意味は理解できるが、これが２０年や３０年の長いスパンで考えたときに、若い世代の人たちがどのように受け取るかということがわからなかったので聞いてみたが、この文が決して悪いというわけではない。

○ 質問：このミッションを策定した後の評価だったりモニタリングだったりについて、どのくらいで評価をされるのか。

回答（事務局）：策定したスクール・ミッションをもとに、この後グラデュエーション・ポリシーという、学校が卒業時に生徒に身につけてほしい力や、カリキュラム・ポリシーという、卒業後に身につけてほしい力を育てるためにどのような教育活動を行うかというもの、またもう一つ、アドミッション・ポリシーという、中学校から高校に上がってくるときにどのような生徒が欲しいかという、３つのポリシーを策定する必要がある。３つのポリシーは２月までに策定する必要があるが、この３つのポリシーを策定したところで、どのような授業や学校行事などを行うかが具体的に決まってくる。この教育活動を決めるために計画や評価が反映されていくことになる。来年度以降は、これらのミッション／ポリシーを反映させた学校評価の計画を立てることになり、この計画をもとに PDCA を回していくということになるので、このミッション／ポリシーが評価の指標の根幹となる。

質問：ミッションやポリシーは計画を立て替えるときに変わる可能性があるのか。

回答（事務局）：スクール・ミッションについては短時間で大きく変わるようなものではないと考えているが、スクール・ポリシーについては少しずつ変えていくということはあり得る。

● 意見：『精神』という言葉が引っかかるとの意見があったが、例えば「ものづくりを通して」という文言ではどうか。キャッチフレーズ的で、これをもとに広がっていくようなものであると思うので、再度検討した方がよいと思う。

● 意見：先生方や生徒の負担にならないポリシーを策定し、評価指標も無理のないものを立てた方がよいのではないかと思う。

● 意見：堅実な言葉が並んでいる印象があり、いいと思うが、例えば、スクール・ミッションを見て有工に入学したいな、学びたいなと思ってもらえるような文言にするために、もう少し「盛った」表現があってもよいのではないか。

意見：ミッションの段階ではそこまで踏み込まずに、ポリシーの段階でもう少し細かい表現でよいと思う。コピーとしては少し長い表現になっていると思う。もう少しインパクトのあるキャッチーな言葉を用いるのは一つの方法ではないか。

意見：これからの時代に即したキャッチーな言葉や、これから社会で働く子供たちの取り巻く環境などに即した、新しい時代を意識した言葉が入ってもよいのではないかと思った。

回答（事務局）：受検をしてくれる中学生に対してどのようにこのミッション／ポリシーを伝えていくかはとても大切だと思っている。その中で、カリキュラム・ポリシーが

最も中学生に訴えやすいのではないかと思う。このカリキュラム・ポリシーをさらに具体化するようなものを、例えば１枚のチラシのようなものにしてカリキュラム・ポリシーを伝え、さらに学校行事などの具体的な例などを挙げたものを、中学生への説明資料に入れ込んでいくということは大切だと思っている。また、県からは「グランド・デザイン」の策定も求められており、この１枚物の資料をグランド・デザインとして作成し中学生に訴えていこうと考えている。

○　質問：全日制と定時制で微妙に言葉を変えているが、生徒は理解できるのか。

回答（事務局）：全日制では策定したときに「愛し」「創り」「光れ」をミッションの文言の中に入れたいという気持ちがあった。文言としてわかりにくいところがあったかもしれないが、本校の校訓が先生たちからもよい校訓であるという意見をもらっていたので、何とか組み込んでつくった。ただし、「創り」については創造の「創」の文字を使うのはなかなか厳しいという意見もあったので、「つくり」のひらがなに変えた。そのため、全体的にぼんやりした表現にみられるところはあるかもしれない。

回答（事務局）：定時制は生徒の実態に合わせて全日制のものを基盤にして表現を変えた。定時制の場合には、学校になじめなかったり、人との関わりが苦手だったりといった生徒がたくさんいる。そのような生徒にとっては学校生活が社会に出る前の最後の場であり、社会に出たときに他との交わりなどで困らない、また社会に出てさらに成長してほしいという気持ちがある。社会に興味関心を持ち続ける気持ちをもって、初めて会う人に対してもできるだけ怖がらずに関わってほしいという考えである。また新しいことへの挑戦がなかなかできてこなかった生徒であるので、ものづくりを通して挑戦が楽しいと思える気持ちを持ってほしいと思っている。また最後に、アルバイトなどを通しながら友達以外の、職場の先輩や同僚、あるいはお客様と関わる中で人間関係づくりを身をもって体験していき、それをもって自分たちがやっていることが社会に役立っているんだという自覚を持ってほしいという気持ちを表現に込めた。

○　質問：スクール・ミッションは学校の社会的役割を再定義しなさいということだと思うが、「校訓」というものは残っていくのか。

回答（事務局）：中央教育審議会初等中等教育分科会の新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）の資料に校訓とスクール・ミッションとの違いが書かれているが、「スクール・ミッションは設置者がより実務的な観点から定める点において、校訓とはその位置づけを異にすると考えられる」とあり、その違いがあるように、これからも校訓は残ると認識している。

大きな方向性については承認され、意見があった『精神』などの文言については学校内で話し合った結果を委員にメールで示し、後日承認してもらうことで了解を得た。

②　「地域学習の日」の実施について

＜これまでの地域学習の日概要＞

・３月の中～下旬に実施していた。対象生徒は１，２年生の全学科８クラス。

・県指定の「佐賀のことを学ぶ時間」というのがあり、卒業までに１２時間の時間を設けて活動しなければならない。この中に位置づけている。

・学年ごとにテーマを設けており、１年生は「有田の歴史」、２年生は「有田の産業」としている。

・移動については基本徒歩で行っていたため、活動範囲は徒歩圏内となっていた。
・１月のロングホームルームの時間を利用して見学先の選定をクラスごとに行い、訪問先について職員がアポイントメントを取っていた。
・当日が雨天の場合には中止としていた。
＜地域学習の日の課題＞
・１月にクラス単位で設定したコースが、時間的なシミュレーションがうまくいっておらず、時間が押したりして、訪問地の到着が遅れたり、訪問地を１か所飛ばしたりして、受け入れ先に迷惑をかけていたことがあった。
・訪問希望先のアポイントメントが取れずに、訪問先を変更せざるを得ないことがあった。
＜今年度の地域学習の日の提案＞
・移動時間の設定などについては、運営協議員の中に例えば観光協会の方がおられるので、例えば「おすすめコース」などがあると思うので、設定を手伝ってもらえないか。
・第３回の運営協議会であったとおり、旧有田町だけでなく、西有田も有田町なので見られないかというご意見があったので、こちらもコースに組み込めないか。
・１月のロングホームルームの時間には、これらのおすすめコースの中から「選ぶ」という形で行うことはできないか。
・有田町に事前に相談したところ、有田町のマイクロバスについては、運転手も含めて無償で使用可能とのことであったので、西有田地区に行くことも可能である。
・１月のロングホームルームの時間までに実際の内容を詳しい方たちと決めていけないかと考えている。

● 意見：観光協会としてもいろいろと協力していきたいと思う。ただ、昨年のコースを見たところ、観光協会で行っているコース設定と比べても、それほど無理な時間設定で計画を立てているとは思えない。十分に回れる内容になっている。
回答（事務局）：一つの訪問地に長くいすぎたのが原因かもしれないが、詳しい原因までは把握していない。
意見：ポーセリンパークや香蘭社であれば、アポイントメントが必要だが、磁石場であれば自由見学ができる。例えばここで時間の調整をすれば、無理なく行程が行けるのではないかと思う。

● 意見：現在は西有田地区が組み込まれていないが、西有田地区であれば有田の産業としては「農業」になるので、どのように絡むかというところが課題として出てくるのではないかと思う。

○ 質問：西有田地区に行く場合にバスが出るということか。
回答（事務局）：有田地区であれば徒歩移動が可能だが、西有田地区の場合には移動ができないため、町に問い合わせたところ、バスを出すことが可能ということであった。西有田地区であれば、農業が主産業になるかと思うので、２年生の「有田の産業」というテーマの中でコースを設定して、２年生のどこかのクラスが選択してくれて、西有田の良さも見てほしいと思っている。ただ、クラスの議論の中で行き先を決めるため、このコースを選んでくれるかどうかは微妙な話である。
質問：コースを説明する人がいると思うがどうか。
回答（事務局）：以前の議論でガイドの話があったと思う。ガイドの方がついていた

だいた方が生徒も勉強になるので、予算などの課題はあるが、どこからか捻出してやれればいいなと考えている。

● 意見：観光協会では、有田の町民向けに磁石場のみではあるが、無償ガイドを行っている。磁石場は単に見るだけだと「すごいな」くらいで終わってしまうが、歴史なども含めて説明を受ければ、印象もまた変わってくるのではないかと思うので、そのような点でもご協力させていただきたいと思う。

質問（事務局）：１クラス４０名で見学する場合、ガイドは何名くらい必要か。

回答：２人くらいだと思う。

○ 質問：コースが科によって異なるのは、科の特色を活かして設定されているのか。

回答（事務局）：基本は生徒たちが選ぶので、セラミック科やデザイン科はある程度選びやすかったのではないかと思うが、電気科や機械科が選びにくかったようで、このあたりは課題と考えている。

質問：地域学習の日はいわゆるインプットの日になるかと思うが、これを学んだあとアウトプットする機会はどんなものがあるか。

回答（事務局）：昨年度は地域学習を行った後の「振り返りシート」と「ルーブリック」の２つで振り返りを行っていた。

● 意見：コースをぱっと見たところ、いつもと同じようなコース設定になっている印象なので、有田町全域を対象とするなら、バスも出ることだし、西有田など広域的に回れば、電気科や機械科の人たちにも考えられるコースができるのではないかと思う。有田の歴史は有田焼の歴史だけではないと思う。

回答（事務局）：例えば西有田であれば、棚田などのリソースもあるが、このようなところを生徒が知っているかというと、なかなか知らないのではないかと思う。特に他の町の生徒たちは「有田といえば焼き物」という印象しかなく、知らないことも多いのではないか。焼き物以外のことも知ってもらうためにも、地域学習の日を活用したいと考えている。だから、「こういうコースもある」と、こちらの方である程度設定する方が、知らないコースがわかって、ある程度生徒にとってもいい影響があるのではないかと思う。生徒がこのようなコースがあるということを知るだけでも意義があると思うし、もちろん行くことで、「楽しかった」でもいいので何かを感じてほしい。そのためにも出来るだけ色々なコースを提示できればと思っているが、自分もよく知らないことが多いので、知識のある方々の協力をお願いしたい。今日中というわけではないが、１月にロングホームルームの時間を設けるため、ここまでに個別に相談をするかと思うので、ご協力をお願いしたい。

● 意見：今年から新しくアイデアを出していくつかのコースを設定して、また次年度にコースを増やすということをやっていけば、コースが増えて選択肢が増えるので、ぜひ新しいルートが追加されていくことを期待している。

● 意見：例えば、ロータリー・クラブであれば、いろいろな社長さんや上司の方がおられるので、そのような方々に一度投げかけてみるのも手である。そうすると、受け入れてくれる施設や企業があるのではないかと思う。例えば「アクアパス」さんなどは世界中に純水の機械、洗浄機を売られているすごいところであるし、西有田地区でいえば「ありたどり」さんなんかもおすすめである。このような企業も２年生にはぜひ見てもらいたいと思う。「有田から世界に」発信している企業

が有田にあるということを生徒たちに知ってもらうことで、地元でも働けるという気持ちにもなるかもしれない。

● 意見：機械科や電気科の生徒たちが自分の専門性を生かすことができるような企業が有田の中にもあるということは確かにそうだと思う。

(5) 説明・報告事項

① 地域みらい留学のハウスマスターの配置について

・ハウスマスターの業務内容について説明…夕方の声掛け、生徒との個別面談、緊急時対応、学校や保護者との連絡が主な業務

・ハウスマスターの紹介…メインで業務に当たられる方と、メインの方が動けないときにサポートに入られる方を紹介。生徒との顔合わせも終わったことを報告。

・ハウスマスターの対象となる生徒について…一人暮らしをしており、大家さんやオーナーさんがすぐそこには住んでいない３名を対象としていることを説明。

・次年度のシェアハウスでのハウスマスターについて…次年度のことだが、ハウスマスターが対応する予定。

② 地域みらい留学（全国募集）の現状について

・合同説明会やオープンスクールは基本的にすべて終了。

・第４回学校運営協議会後の１０月２８日に行ったオンラインの合同説明会時に参加いただいた方の中で福岡県の方と連絡を取り合った。

・学校見学を希望され、１２月１日に個別で見学会を開催した。

・５名（東京、神奈川、福岡２名、大分）の保護者と連絡を取り合っているところ。

・５名のうち３名（神奈川、福岡、大分）の方とは中学校の先生方とも連絡が取り合えている状況。

・今のところ、令和６年度の志願者は３～５名になるのではないかと見積っている。

・受け入れ態勢については、ゲストハウスに新たに３、４名の受け入れが増え、食事も週に２回夕食が提供されるとのことで、ホームページ等に情報をアップデートした。

・シェアハウスについては、男子棟、女子棟それぞれ４名ずつ対象としたものがあり、リフォーム工事が開始されたとの話を聞いている。

・リフォーム工事は１月中には完了とのことである。

○ 質問：シェアハウスには夕食があるとのことだが、夕食を作られる方は選出されているのか。

回答（県教委）：まだ生徒が何名入居するかもわかっていない状況なので、まだ行っていない。

質問：まだ全くなのか。もし来たらお願いしますという打診もしてないのか。

回答（県教委）：まだないと思う。

③ 地域との連携事業について

・参考資料であるARIKOコミュニティ・スクール通信と学校だよりの勉脩を参照。

・第４回運営協議会以降の１か月ちょっとの間でも、様々な活動を行った。

・参考資料以外でも内山地区で行っているクリスマスイベントに、機械科の生徒が所

属している自動車研究部がベンチを４脚製作し、寄贈した。
・旧佐賀銀行跡地にクリスマスツリーを囲むように配置し、１２月１日に寄贈式を行った。
・電気科の職員が依頼を受け、イルミネーションの技術的なサポートも行った。
・伊万里実業高校とのコラボレーションについては、来年度の課題研究としてできるかどうかを含めて検討しているところである。
・いろいろな依頼があっているが、生徒のマンパワーが厳しくなっており、あくまで生徒の教育活動の一環として行う内容であるため、生徒のマンパワーを見ながらの取捨選択となる。
・先日の中間報告会で校長も述べたが、「断る勇気」が大切である。何でもかんでも受け入れると、生徒も職員もパンクしてしまう。
・取捨選択を行わなければならないほど、各方面から依頼が来ているという、うれしい悲鳴を上げているところである。

○ 質問：伊万里実業とのコラボレーションについて、今のところ具体的な内容はあるか。

回答（事務局）：伊万里実業が文部科学省の研究指定校になっており、伊万里実業として考えられていたのは、農業高校と商業高校が合併した学校なので、６次産業化ということで、農業や林業での自分たちで作った農産物を自分たちで売るというところまでを考えているようだった。当初の計画では、物品の販売の中で本校のデザイン科がパンフレットを作るといったコラボレーションができるのではないかという話だった。これ以外の話として、デザイン科が作っているレーザー加工機で作った立体パズル的なものについて、デザインを本校が行い、加工を伊万里実業で行うということはできないだろうかといったことや、ロット数の問題で厳しいとは思うが、農林キャンパスで作っている植木の植木鉢を本校セラミック科で作れないかという話が来ている。先方は「売る」ということまで考えており、こちらはあくまで教育活動の中で行うものなので、こちらで物を作るとなると、ロット数が稼げないために難しくなるのではないかと思う。現時点ではアイデア出しの状況である。

● 意見:ほかの学校とのコラボレーションはすごくいいなと思う。課題研究となると、１年間しっかりというイメージがあるが、デザインについて「このようなことをやりたい」という思いが結構強い生徒が多いのではないかと思う。自分の時も先輩から受け継いだ研究や町からの依頼を課題研究として、強制的にではないが提案されたテーマを受けてしていたが、その際も依頼側からのケアやフィードバックが無く、不完全燃焼というか、「本当にこの課題研究のテーマやりたかったのだろうか」という気持ちが今でもある。生徒がやりたいことと、伊万里実業からの依頼がマッチすればとても良いと思うが、課題研究についての生徒が抱く思いは強いと思うので、慎重に進めてもらいたい。

● 意見：このことはよくわかる。自分のところもいろいろと依頼があるが、「ただのバイトでいいのではないか」というようなものも結構ある。

○ 質問：コミュニティ・スクール通信にある「山の会議」に関東から来た地域みらい留学の生徒が参加したとあるが「山の会議」とはどういったイベントだったのか。

回答（事務局）：「山の会議」は県のさが創生推進課が主催しているもので、「山」と

なっているので基本は山に関連した内容を扱うが、もう少し緩い感じある。地域で活動されている人たちが小さなコミュニティで活動されているのを、横のつながりを作り、それをもとに新しいアイデアが出たりすることを期待して開催されている。年に何回か開催されており、今年は有田地区に当番が当たってきた。有田で山や自然、農業の分野で地道に活動をされている方々が意見交換することで横のつながりを広げたいという中で、高校生の若い意見もぜひ欲しいと県の担当者からの依頼があり、参加されたこの会の委員の方から地域みらい留学の生徒に声をかけていただいて、参加してもらったという経緯である。写真はグループで話し合った後に代表がまとめを話すことになり、グループ内で代表に担ぎ上げられたのだが、発表時には臆することなく堂々と、また自らの意見も入れながら発表してくれた。

● 意見：うちやま百貨店への有田工業高校の出店の記事があるが、同時期に行った秋の陶磁器まつりについて、情報共有ということで報告させていただく。11 月 22 日から 26 日までの 5 日間開催した。来場者数は公表 15 万 3 千人で、昨年比 109%となった。おかげさまで５日間晴天が続き、特に 23 日が暖かく、来場者のピークとなった。引き続き、来年の２月４日から３月 10 日まで恒例の有田雛のやきものまつりをまた観光協会主催で行う。今年 20 回目で近づいたらその話もさせていただきたい。

お礼（事務局）：うちやま百貨店については、今年度は手塚商店の蔵の２階で作品の展示をさせていただいた。初日の午前中だけで 80 名程来場していただいた。有田工業の中にセラミック科やデザイン科といった珍しい学科があることをご存じない方が、全国から来られていることもあってたくさんおられた。セラミック科の中で生徒が今回展示したような作品を作っている、作ることができるということに驚かれていた。パンフレットを配布するなど地域みらい留学の PR もでき、学科の特色が大いに出た展示会だったと思っている。改善点は、生徒の姿がなかったことで、来年度は生徒にも展示会に来てもらい、学校全体でやっていきたいと思っている。

○ 質問：うちやま百貨店のことだが、展示された焼き物やデザイン作品は売り物にはなるのか。

回答（事務局）：生徒が作っている作品なので、難しいかもしれない。例えば文化祭では職員が作った作品を作者名を入れずに販売することはある。生徒作品は授業内で作っているものなので、基本的には販売はしていない。

● 意見：生徒が自分たちで作った作品に値段をつけて、それが売れるのか売れないのか、生徒自らが考えている評価と周囲の皆さんが持っている評価とは違ったら売れないという経験もよいのではないか。例えば自分が設定した値段ですぐに売れたのならば、創作意欲がものすごく上がるのではないか。販売金をプールして何か別の全体の用途に使えば、自分のお金にはならないが、自分の評価ができる基準ができるのではないかと思う。

回答：貴重なご意見ありがとうございます。夏休みに校外で『セラミック科展』というものを開催しているが、その中でも「作品を販売できないか」というご意見をいただいているので、今後の課題ではないかと考えている。とくにセラミック科では自分が最初から作品を作って、最後の販売までかかわることのできる学科

だと思っているので、今後検討していきたいと思っている。

○ 質問：機械科が作ったベンチの件は、いくらくらいで作ってもらえるのか。イルミネーションはうちの会社でも作ろうとしているので、できれば高校生に作ってもらった方が話題にもなるので。

回答（事務局）：お金よりも課題となるのは時間である。いろいろなところから依頼が来ているが、お金はそれほど問題ではなく、製作時間が確保できるかどうかが問題になる。

● 意見：他の専門高校、商業系や農業系ではさらに突っ込んだ形でやられているところもあるかと思う。工業系に関しては、ものを作ってさらにその先にあるもの（販売）を意識するというのは今後のこととしてはあるかと思う。ただ、来年からすぐというのはなかなか難しいかもしれない。製作したものに対して対価を得るということは、一つの評価になるので、高校生の時から意識するというのは大切なことではないか。こちらの運営協外界からの具体的なプランや手法、ルール改正などがあってもよいのではないかと思うので、今後頭の中に入れておくのはいいことだと思う。

(6) 諸連絡

① 次回の学校運営協議会について

・２月に開催予定

・議事は

学校評価（最終評価）

コラボレーション・スクールの評価

スクール・ミッション／ポリシーについて

② 課題研究で制作した映画の上映会について

・デザイン科の生徒２名が助監督で入っている

・有田ケーブルネットワークと伊万里ケーブルテレビとの共同

・１２月２３日（土）に炎の博記念堂で上映会開催で2回上映

・上映自体は30分程度だが、インタビューや製作の裏話などで合計90分とってある。

・知り合いにもご紹介願いたい

○ 質問：これはケーブルテレビとかでも流れることがあるのか。

回答（事務局）：今のところはない。上映会を行うという PR 等はケーブルテレビでもなされている。

③ 吹奏楽部定期演奏会について

・17日（日）炎の博記念堂で13時半開場、14時開演

(7) 閉　会